



資料3-5

船橋力氏配付資料

中央教育審議会 教育振興基本計画部会 ヒアリング参考資料

2011年10月20日(木)

株式会社ウィル・シード
代表取締役社長 船橋 力

<http://www.willseed.co.jp/>

E-mail: funabashi@willseed.co.jp

Twitter: [c_funabashi](#)

会社紹介： 5つの事業領域



■企業への人財開発実績

- ✓ 大手企業を中心に350社以上
- ✓ 毎年100社延べ2万人の新入社員研修
- ✓ 書籍『ゆとり社員の処方せん』の出版
- ✓ 70社の成長環境サーベイ実施

■子ども・学校教育実績

- ✓ 全国約60自治体(890校以上)
- ✓ 約7万人の小／中／高校生への“体験型教育”
- ✓ 教員研修

- ✓ トップキャリア外国人採用
- ✓ スイスIMDなど世界水準経営学校へ派遣
- ✓ 海外派遣型研修
- ✓ 語学教育(オンライン英会話)

自己紹介(略歴)



1970年 6月	横浜生まれ
1973－77年	アルゼンチン・ブエノスアイレス在住
1986年	高校在学中にブラジル・サンパウロ市の インターナショナルスクールに転入
1994年 3月	上智大学経済学部経営学科卒業
1994年 4月	伊藤忠商事株式会社入社 ... インフラプロジェクト部でインドネシアの ジャカルタ地下鉄推進プロジェクトなどを手がける
2000年 7月	株式会社ウィル・シード創業
2003年	内閣官房 構造改革特別区域評価委員
2003年	早稲田大学大学院MBAプログラム非常勤講師
2004年	文部科学省 初等中等教育・国際教育推進検討委員
2009年	世界経済フォーラム(ダボス会議)ヤンググローバルリーダー



グローバル人材に 必要なことは？（参考）

「グローバル人材」の人材像



長いキャリアパスの中で、グローバル人材になる32歳は
どんな知見、経験、知恵や力を持っておく必要があるのか？

1) 情報収集・解釈力

→ 世界の流れ、情報、動き、価値観の変化などを入手する仕組みと解釈力
(世界の中での日本、日本企業、世界と世界の関係)

2) 語学力

→ 外国人リーダーレベルとコミュニケーションが出来る語学力
(5年後は、日本語＋2カ国が必要となると思うが)

3) 環境適応力(異文化理解・ダイバーシティ・タフネス)

→ どのような多様な人との間、ビジネス環境も受け入れることが
出来る感覚・適応力

4) 発信力

→ 自国、自社、自部署、自身の強みを踏まえて、自分の意見を持ち、
発信出来る力

を、どんな場所においても自ら獲得し、成長できる力。つまり、明日から関西、九州、四国に行っても大丈夫な能力。同質な国内環境で育成出来るのか？

「グローバル人材」の育成において必要なこと



どのような経験や教育が、そのような人材を育むのか？

1) 世界水準 & 多様性に触れ、ベンチマーク

- 世界から日本、世界から世界を見る必要(日本から世界ではダメ)
- 同世代とのベンチマーク
- 同質性の中で何が見につく？

2) 原体験 … 失敗体験、成功体験 (短期でも良く、意図的にデザインできる)

3) 早期・定期・先行経験

- ✓ 問題意識の醸成：危機意識、楽しさ
- ✓ 地域3カ国以上)

- 違いのバリエーションが増え、想像力、応用力がつく
- 育成可能、日本で優秀な人は海外で優秀か？
- 合う合わない国・場所がある
- したがって、数カ国を体験しておくの良い(評価・嗜好)

上位層向け:世界水準グローバルリーダー育成



～スイスのビジネススクールIMDの短期集中グローバルマネジメント教育～

【本海外派遣型プログラムの特長】

- ✓世界数80国から450名が参加。多国籍の教授陣、アジア含む豊富なケースからなるまさに“世界”を体感できるダイバーシティ環境
- ✓世界MBAランキングで常にトップ3に入るIMDの世界最高峰のプログラム品質
- ✓世界競争力調査に基づいた最新／リアルデータからカリキュラムを開発

●OWP(Orchestrating Winning Performance)のご紹介

世界約80カ国から集結する450人を一同に集めたプログラム。毎年6月末～7月初旬に実施。
世界に挑むビジネスリーダーのために開発した短期集中型(約1週間)の新しいグローバルリーダー育成プログラム。
MBAのような普遍的な経営スキルではなく、
「まさに今、世界で起こっていること」を題材に、今後のリーダーシップや経営環境を考える機会を提供する。